

経済文化情報

学部の講義科目としては、経済英語と経済文化がある。経済英語は、経済情報を伝える英語の学習を目的としたものである。経済英語という特別な英語があるのではなくて、内容に関しては英語学習の延長線上にあり、経済および経済学を内容とした英語を主たる対象にするという意味である。これには、たとえば、経済と経済学に関する内容の文献・雑誌記事の講読などが含まれる。経済文化は、英米・独仏・中露にわかれており、各国の経済と文化(および両者に関連する分野)の諸相を扱うものである。歴史・思想・文学・言語・芸術などのうちから特定のテーマを講義するので、年度・担当者によって内容には相違がある。

大学院の講義科目は、各国経済思潮(A, B)である。学部科目の経済文化をさらに発展させたものであって、人文科学的な視点からの講義も含まれる。おおむね A は総論的, B は各論的であって内容は重ならないように計画されているが、この区別は厳密なものではない。

学部, 大学院を問わず、これらを通じて、人文科学でもエコノミー的思考は不可欠であり、しかもそれが経済学におけるエコノミーの概念を補足するものであることを学生が認識してくれることを期待している。